

平成 30 年 2 月 28 日
予 報 部

「ひまわり 8 号」の観測データ等を活用した 航空気象情報の改善について

気象衛星「ひまわり 8 号」による詳細な観測データ等を活用し、航空関係機関向けの情報として、3 月 1 日（木）から、新たに山岳波や砂じん嵐に関する空域気象情報の発表を開始します。

気象庁では、航空機の安全で効率的な運航を支援するため、民間航空会社等の航空関係機関に対し、日本周辺上空における乱気流や火山灰等の航空機の運航に影響を与える現象に関して、空域気象情報（シグメット情報）を発表し注意喚起をしています。

高分解能化・多バンド化された気象衛星「ひまわり 8 号」の観測データ、数値予報技術等の発展、これまでの事例の蓄積に伴う知見の確立などにより、航空機の運航に影響を与える現象のより詳細な把握や的確な予測が行えるようになりました。このため、平成 30 年 3 月 1 日（木）から、現在対象としている現象に加え、山岳波や砂じん嵐（別紙参照）に関するシグメット情報の発表を開始します。

【気象庁ホームページでの掲載ページ】

航空気象情報

<http://www.data.jma.go.jp/airinfo/index.html>

「空域の情報」>「シグメット情報」を選択してご覧ください。

問合せ先：予報部 予報課航空予報室 担当 町田

電話 03-3212-8341（内線 3515） FAX 03-3212-8377

1．山岳波

山岳波は主に、空気塊が山脈にぶつかり、山脈の風下側に上下振動する波が伝わることで発生します。航空機の揺れを引き起こし、場合によっては乗員乗客が怪我をしたり、航空機の操縦が困難になったりと、安全な運航の支障となります。

ひまわり8号の観測が高分解能化・多バンド化されたことで、可視画像や赤外画像等により山岳波に伴う波状の雲をより細かく監視できるようになり、また数値予報技術等の発展やこれまでの事例の蓄積により山岳波の予測技術が向上したため、シグメット情報として発表することが可能となりました。

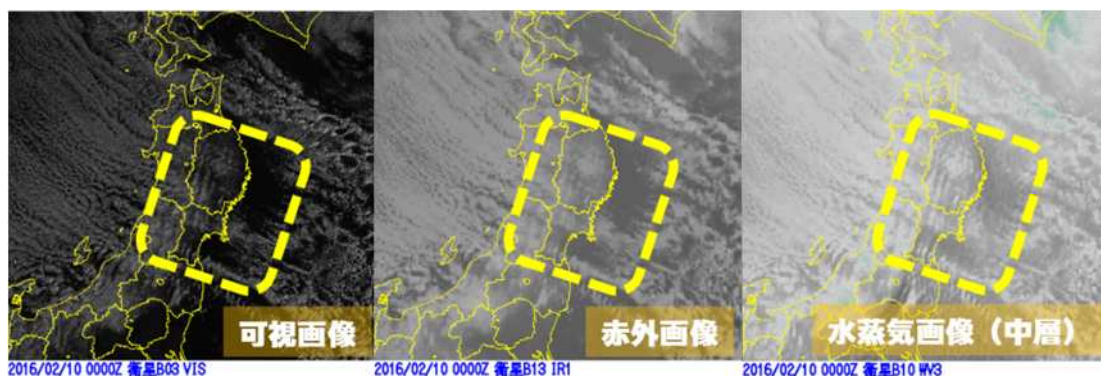


図 奥羽山脈の南東方向にのびる山岳波に伴う波状の雲

2．砂じん嵐

砂じん嵐は、ちりや砂が強い風によって激しく巻き上げられる現象です。視程が著しく低下するような強いものは、航空機の安全な運航に大きな影響があります。

ひまわり8号の多バンドの観測データを組み合わせて表示することで、空中に巻き上げられたちりや砂を監視できるようになり、シグメット情報として発表することが可能となりました。例えば、True Color 画像では実際に人間の目で見ると同じようなイメージで、また Dust RGB 画像ではちり等の領域をピンク色のイメージとして確認することができます。

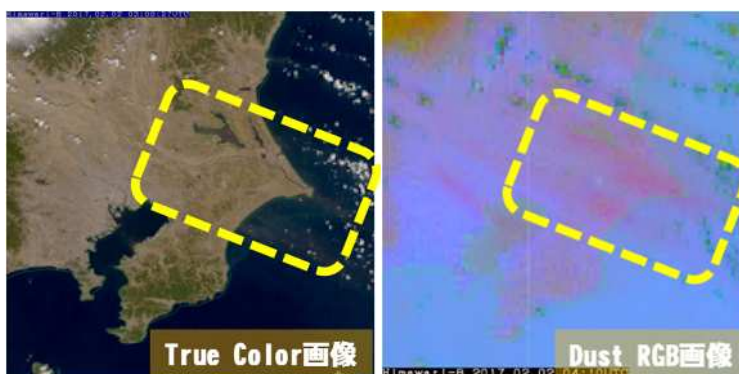


図 関東平野から巻き上がった砂じん